

<祈りのすすめ>

「だから、彼らにはたとえを用いて話すのだ。見ても見ず、聞いても聞かず、理解できないからである。」
(マタイによる福音書第13章13節)

「よい土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて悟る人であり、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結ぶのである。」
(同第13章23節)

イエスは神や天国の真理をたとえによってわかりやすく話しました、というのはまったくの間違いです。むしろ反対に、イエスがたとえ話を用いたのはわかりにくくするためであると、ここにはっきりと述べられています。それなのに、イエスのたとえ話の目的はわかりやすくするためだ、と思いついでしまっていないでしょうか。

では、なぜわざとわかりにくくしたのでしょうか。意地悪な意図ではないでしょう。それは大勢の群衆、すなわちイエスに興味と関心を持ち、見聞きしてはいるが従おうとはしない人々が、「見ても見ず、聞いても聞かず、理解できないからである」と明言されています。一方弟子たちには「天国の秘密を悟ることが許されているが・・・」(11節)というのは、彼らは教団幹部なので秘密情報を得ている、という類いの意味ではありません。なぜならイエスに従うならだれでも弟子になれるからです。わからなければイエスに聞きに来ればよいのです。そういう人を弟子というのです。ぎゃくに、大勢の群衆はイエスがなさった活動や態度、言葉をわかったつもりになって自分勝手に判断し、「心で理解せず、悔い改めない」

(15節)で済ませてしまいました。そういう態度が一番の問題なのです。ですから、そのたとえ話のどこがわかりにくいのか、という問いが欠かせません。

さて、良い土地に落ちた種の収穫は、多少の違いはあっても通常の規模であり、過剰な「繁栄」とは違うというのもわかりにくい一点です。というのは「繁栄と平和」という言葉を望ましい一対のものとして、天皇や政治家などが頻繁に使っており、わたしたちはあまり疑問を感じないで聞いています。しかしそれらは単純に並べて祈れるものではなく、「繁栄」と「平和」とは相矛盾するものです。「繁栄」を求めるがゆえに戦争を引き起こし、平和を破壊します。平和は赦しと和解と分かち合いの上にはか築かれません。それなのに大国に守られているという幻想や、他の国より優位に立ち服従させるのを平和と取り違えている現実があります。

み言葉を聞いて「悟る」人。それは、繁栄ではなく「日ごとの糧」を祈り、自分たちに都合のよい平和ではなく、「罪が赦され」「御心が地に行われる」平和を祈り求めて生きる人ではないでしょうか。

<祈り>

主なる神よ、わたしたちが神の国の言葉を心で理解し、悔い改めて救われる者としてください。自分勝手な繁栄の祈りではなく、主イエスがこう祈りなさいと教えてくださった祈りに生きる者としてください。あなたの正義と公正、愛と憐みの御業が行われますように。主の御名によって祈ります。

(靖国神社問題特別委員会委員・北海道中会宣教教師 古賀清敬)

論説 Q&A 天皇の靖国神社参拝（親拝）について

井上 豊（広島長束教会牧師）

私は明仁天皇にとっても感謝したいことがあります。それは天皇に在任中、靖国神社に一度も参拝（親拝）しなかったことです。ここに天皇の靖国神社参拝についてまとめてみました。

Q 昭和天皇が靖国神社に最後に参拝した時のことを教えてください。

A 1975年11月21日、昭和天皇の戦後8回目の靖国神社参拝が行われました。当時の靖国神社問題特別委員会は、情報を入手するとすぐ全教会宛てに抗議電報打電の要請を行い、当日は大会議長を初め有志一同、靖国神社において抗議行動を行いました。12月15日に大会議長名で出した声明は、軍国主義を支える精神的支柱であった靖国神社への天皇の参拝は平和に逆行する行為であり、宮内庁がこれを「私的行為」と説明したことに国民は納得できないと、厳しく批判しています。

Q 昭和天皇はその後、靖国神社を参拝しませんでした、その理由は何でしょう。

A 1978年3月に靖国神社の宮司になった松平永芳^{なが}氏は同年10月、それまで宮司預かりとなっていたA級戦犯14人を合祀しました。その後、2006年7月20日の日本経済新聞に「A級戦犯合祀、昭和天皇が不快感」という記事が掲載されて、そこに宮内庁長官を務めた富田朝彦氏のいわゆる富田メモが紹介され、昭和天皇が1988年4月28日に語ったという言葉が公表されました。

「私は或る時に、A級が合祀され その上 松岡、白鳥までもが 筑波は慎重に対処してくれたと聞いたが 松平の子の今の宮司がどう考えたのか易々と 松平は平和に強い考えがあったと思うのに 親の心子知らずと思っている だから 私あれ以来参拝していない それが私の心だ」

昭和天皇はここで、松岡洋右^{ようすけ}、白鳥敏夫ら A 級戦犯が合祀されたことと、筑波藤麿前宮司は A 級戦犯合祀に慎重であったのに後を継いだ松平永芳宮司が（彼の父親と違い）安易に合祀してしまった

と言って、不快感を示しています。日本をあの戦争に導いた A 級戦犯の合祀がその後の参拝が途絶えたことと大いに関係がありそうです。

Q 明仁天皇が参拝しない理由は何ですか。

A 明仁天皇は皇太子の時代に5回参拝したものの即位後の参拝はなく、またその理由を説明していません。私は、明仁天皇自身が、靖国神社で A 級戦犯を参拝する自分の行為が世界の平和に逆行し、日本を新たな戦争に導く可能性があることを危惧しているからではないか、と考えています。

2018年6月、靖国神社の小堀邦夫宮司の以下の発言が大きな問題となりました。小堀氏はその後宮内庁に謝罪して、退任しました。

「陛下が一生懸命、慰霊の旅をすればするほど靖国神社は遠ざかっていくんだよ。そう思わん？ どこを慰霊の旅で訪れようが、そこに神霊^{みたま}はないだろう？ 遺骨はあっても。違う？ そういうことを真剣に議論し、結論をもち、発表をすることが重要やと言ってるの。はっきり言えば、今上陛下は靖国神社を潰そうとしてるんだよ。わかるか？」

天皇の参拝があつての靖国神社ですから、参拝がなければ存在意義が問われかねません。

Q 今後はどうなるのでしょうか。

A 天皇のために死んで祀られた人たちに天皇が感謝し、たたえるということが天皇の靖国神社参拝です。だから、参拝がないのは喜ばしいことです。今年は靖国神社創立150年に当たり、4月21日から23日まで春の例大祭が行われます。ここで何事も起こらなければ、参拝がないまま「平成」が終わることになるでしょう。天皇の参拝を熱望する人たちは、「平成の御親拝なければ日本国の危機だ」と焦燥感をつのらせています（別冊正論33、2018年12月）。

将来的には、誰が天皇になっても靖国神社に参拝することのないよう、真の平和を希求する広範な世論を盛り上げるのが肝要です。

韓国日本大使館前の水曜デモ集会に参加して

比嘉美恵子（沖縄伝道所）

私は2月25日（月）～28日（木）の「3・1独立運動ゆかりの地をめぐる韓国ツアー」に参加し、とても学びの深い経験をしました。さらに韓国の教会と在日大韓教会の先生方と兄弟姉妹たちの、これまで私が経験したことのないほどの温かいおもてなしとお世話をしていただき、心から感謝しております。そうした中で、私が日本大使館前の従軍慰安婦像前の水曜デモ集会でスピーチをした時の報告をいたします。

そこには想像以上の大勢の方々がおられ、スピーチを頼まれていた私はとても驚いて、足がすくむ思いでじっと祈っていました。その日は3・1独立運動2日前の春休みで、子供たちも親と共に参加して静かに聞いておりました。若者たちが歌を歌ったり踊ったりして活気に満ちている集会の中で、司会者は「日本の天皇は未だ謝罪していない」と語られたのを通訳者から聞いて、沖縄の叫びと共通するものを私なりに受け取りました。そして真っ先に、20数団体約500人以上の出席者の前で私が語ることになりました。通訳してくださる方と事前に語る言葉を確認して一緒に壇上に上ったのですが、ガタガタと震える足を抑えて、心を込めて語りました。参加者は静かに聞いてくださり、拍手があつて驚きました。沖縄生まれの私は、今もなお国の政策によって差別されている心の痛みがあるために、声を震わせながらもしっかりと語ることが出来たと、後で静かに思いました。私が壇上で語ったことが民間テレビに放映されたようです。以下は私がスピーチした文章です。

アンニョンハセヨ 私は日本の最南端の島、沖縄からやってきた比嘉美恵子と申します。

韓国の国会議長は、明仁天皇が「退位する前に従軍慰安婦の手を握って、（戦争犯罪人の息子であるために）本当に申し訳なかったと言っています、全て問題は解決される」と言っていますが、沖縄も同じことが言えます。

1879(明治12)年3月27日、明治政府は琉球を処分し、天皇制国家の属民にして皇民化教育を行いました。

1945年の沖縄戦は、天皇の国体を護る「捨て石」として地上戦を行い、私たちのおじい・おばあちは奴隷か家畜のように扱われ、世界の歴史の中でも類のない地獄のような戦争を経験しました。

私たちは朝鮮3・1独立運動と韓国民主体運動から、沖縄の自立・独立を学びたいと願っております。沖縄はこれまで日本政府

から差別され踏みにじられてきました。それでも排除され潰されても真実を曲げないで、踏みにじられたそのところに神が働いてくださると信じております。

明仁天皇が沖縄に何度も足を運んでいますが、「慰霊」しかしておりません。「慰霊」行為は無責任です。むしろ韓国・朝鮮と同じように、沖縄の私たちに「謝罪」すべきではないかと思えます。沖縄戦の最高責任者である裕仁天皇の罪責を引き継いでいるからです。そうでなければ、本当の「和解」は起らないでしょう。

韓国政府が苦痛を与えた日本に対して、最も近い隣国らしく真実の反省と和解をもって共に未来へ進んでいくことを求めているように、沖縄も独立に向かうことから真の意味の独立を日本に促し、沖縄と韓国が日本を挟み撃ちにして、本当の和解に持ち込んで行くことを願っております。私たちは韓国の皆さんと共に闘います。

大韓イエス教長老会（合同派）3・1百周年記念礼拝における挨拶

2019年2月24日

ソウル西大門教会

日本キリスト教会九州中会議長 澤 正幸

3・1の百周年を記念する礼拝にお招きをいただき、日本の牧師としてここでみなさんに挨拶する機会をあたえていただいたことを、神様とみなさまに感謝します。

3・1独立運動が大きな犠牲を伴ったこと、日本の軍隊による鎮圧の犠牲となって7千5百名の方々が殺され、2万人の人が逮捕され、獄につながれたことを思う時、日本人であるわたしの心は、痛みと悲しみで一杯になります。とりわけ日本人キリスト者として、堤岩里（チェアムリ）の教会で起こった痛ましい悲劇は、主にある愛する韓国の兄弟姉妹の命が日本の官憲によって奪われた事件としていつまでも記憶されなければならない出来事であります。

日本が36年間、韓国朝鮮を植民地支配した歴史、そこで犯された略奪と蛮行の数々、韓国の方々の魂と誇りを傷つけた侮辱の数々を知ろうとしない日本人、その歴史に目を閉ざしている日本人のあまりに多いことを、悲しみをもって覚えます。

今、韓国の国会議長が、従軍「慰安婦」のハルモニに対して、日本の首相や天皇から心からの謝罪があつて当然であると発言されたことに対して、日本政府は、謝罪を拒み、かえって反発し、国会議長の方が発言を撤回し、謝罪することを要求しています。

もし、ドイツ政府と、ドイツ国民が、第二次世界大戦においてヒトラーのナチスドイツが行った犯罪の数々について、謝罪を拒んだなら、世界に受け入れられるはずはありません。それなのに、どうして、日本政府が、また日本国の象徴とされている天皇が、韓国朝鮮に対して犯した罪について謝罪しようとししないのか、謝罪できないのか。謝罪を拒んだまま、アジアにおいて、世界において正しい国、正しい国民として受け入れられることができるでしょうか。

日本の国が、その政府が、また天皇が、歴史の審判者であられる神様の前に、歴史の事実を直視する勇気を持ち、罪を認め、謝罪し、和解を求めるようになることを、日本のキリスト教会は祈り、願っています。

しかし、みなさんは、日本のキリスト教徒の数が人口のわずか1%にも満たないことをご存知であられるでしょうか。

日本において絶対的な少数者であるキリスト教会が、日本の国と、日本国民を変えて行く上で、あまりに小さく、弱く、影響力をもてないとしても、わたしたちは、今日、百年前、朝鮮の独立をもとめて叫びを挙げた人々の頭上を覆っていた暗闇の深さは、今、わたしたち日本の教会を覆っている闇の深さよりももっと、暗く、深かったことを思います。にもかかわらず、百年前、韓国朝鮮の人々が、その深く、絶望的な闇の向こうに希望の夜明けと、朝を待ち望んで立ち上がったこと、独立万歳を叫んで立ち上がったことを思って、わたしたち日本のキリスト者も、信仰と希望と愛を持って立ち上がりたいと思います。

そして、3・1独立運動の精神が、決して空しくなく、平和と自由をこの世界にもたらされる神様の歴史支配と摂理に沿うことが、この百年の歴史を通して示されていることから勇気を与えられたいと思います。

それゆえに、3・1百周年のこのとき、みなさんと共に、この東アジアに真実な主なる神による和解と平和、愛と喜び、神への賛美が満ちるときを目指したいと思います。「み国を来らせ給え」と祈りつつ、力を合わせて進んでゆきましょう。

771号ヤスクニ通信 2019年4月14日

発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会

発行人 古賀清敬、編集 小塩海平、

発行 芳賀繁浩(日本キリスト教会大会事務所)

<編集後記> 3・1朝鮮独立運動百周年に関する記事を二つ、ニュースとして掲載。寄稿に感謝。/当時の日本では「不逞朝鮮人の暴動」として報道し、日本人はそれを鵜呑みにして反省の機会を逸した。/韓国国会議長の「天皇が一言謝れば解決する」との発言の背景には、当時の朝鮮は天皇の直轄統治だった酷い事実がある。(K生)